

1 単元名 「一人ひとりがめあてをもち選んだ技に挑戦するマット・跳び箱運動【中学1年 器械運動】」

2 運動の捉えと子どもの実態

(1) 器械運動の中心のおもしろさ

器械運動には、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる喜びや達成感を味わうことができる運動である。これらの技は、運動の構造に基づいて、系、技群及びグループの視点によって系統的に分類される。各系統の技は、発展性が考慮されており、丁寧に段々と取り組んでいくことが安全性の確保に繋がると同時に、技能のポイントの理解が進むと、技ができる喜びを得ることができる。

また、個別学習を楽しめるというところも魅力的である。他者と必ずしも関わらなければいけない単元でもないため、めあての設定、自己課題の発見、合理的な解決に向けた取り組みがしやすい。器械運動は「思い通りに動かない自分の体との対話」と定義付けるなら、「動きの感じ」「動きのイメージ」を大切にして学習に取り組むところにおもしろさがある。もちろん個別学習から出発して、必要感が出たときに友だちや先生、ICT や体育実技などを頼ることで、学びや活動も広がっていくだろう。

(2) 子どもの実態

①学級の雰囲気は、落ち着きがあり、運動能力が高い生徒が多いわけではないが、運動に前向きに取り組もうとする生徒が多い。最近実施した陸上競技の単元では、自己選択した種目で、記録に挑戦したり、仲間と競ったりすることを楽しむ姿もあった。

運動経験には、かなりの個人差があるようである。試しに前転と倒立に挑戦してみたが、怖がる生徒も多く、運動感覚づくりの段階から、経験を積む必要もあるように感じた。自分にあつためあての設定を大切にし、練習方法の選択、粘り強い取り組みができるよう、学習内容を検討していきたい。

②アンケート結果 1年1組:アンケート回収数 26/30 枚

Q1. 器械運動の授業は楽しかったか。

| すごく楽しかった | まあまあ楽しかった | あまり楽しくなかった |
|----------|-----------|------------|
| 6名 | 10名 | 10名 |

Q2. 器械運動の授業でたのしかったことはどんなこと? (複数回答可)

| | |
|---------------------------|----|
| ア:新しい技ができるようになること | 14 |
| イ:より高い跳び箱を跳び越すこと | 9 |
| ウ:ロイター板を使って跳ぶこと | 5 |
| エ:跳び箱を跳び越している感じ(ふわっとするなど) | 10 |
| オ:友だちとできるようになるために教えあうこと | 8 |
| カ:友だちとできた技を喜び合うこと | 9 |
| キ:跳び箱を使ってできた技などを発表しあうこと | 0 |

Q3. 器械運動で難しかったことがあれば書いてください。

マットうまく回れない。マット運動どこに気を付けたらいいかわからない。頭痛くなるしケガしたくない。高い跳び箱を跳ぶこと。跳び箱高い。跳び箱の低すぎ高すぎ。跳び箱でジャンプするタイミング。跳び箱の手をつく場所。着地。跳び箱 (2)。跳び箱の上でハンドスプリングするやつ。足抱え跳びみたいなやつ。高度な跳び箱。6段。後転 (4)。側転。ロンダートできない。倒立。マット運動 (4)。

Q4. 器械運動で面白くなかったことがあれば、書いてください。

何もしていないのに先生に怒られた。うまく跳べなかった。跳び箱跳べない時。骨折とかケガしたくないし頭痛くなるし、大嫌い。跳び箱あんまり上手じゃないし跳んで転ぶのが怖くて高い跳び箱にあんまり挑戦できなかったこと。順番待ちが長いこと。技がいくらたってもできない。跳べないしできないから楽しくない。なんかできなかったから楽しくなかった。できない技があったとき。できないこと。全部。後転。跳び箱運動。

Q5. 器械運動で今年度、どんな学習をしてみたいか、書いてください。

知らない技を知りできるようになりたい。できなかったから頑張りたい。カッコいい技の成功。新しい技をできるようにしたい。できない技があった時にみんなで乗り越えるような学習。できる技をずっとやるのではなく、一つできたら次の技やって苦手な技をできるようにする。できるようになる。楽しいことがわかるように教えてほしい。とても楽しい学習。跳び箱。跳び箱上手に。跳ぶ練習、ジャンプ力向上。ロイター板を使って高く跳びたい。より高い跳び箱に挑戦。跳び箱何段跳べるか。跳び箱の上でハンドスプリング。倒立。側転。ハンドスプリング。マット運動 (2) ストレッチ。足が速くなる運動。

器械運動が楽しくないと感じている生徒が多数いる。また、楽しくなかったと回答する生徒の記述を見ると、かなり毛嫌いしている印象が強い。一人ひとりの感覚にも違いがあり、願っていることも様々であった。一人ひとりがめあてをもって段階的に取り組める学習を大切にしながら、生徒の記述を尊重し、色々な技に挑戦したい生徒たちは順番待ちで時間を浪費することなく、できる技を増やすことのできる学習にしていきたい。

(3) 本単元の中心となる学習内容

本単元では、技の系統性を大切にしながら、共通課題への取り組みを手がかりとして、自己選択した技に取り組んでいく。マット運動、跳び箱運動を同時に扱っていくので、つながりを感じながら、器械運動のおもしろさを味わえるように以下の点に留意し学習に取り組めるようにする。

①自己選択した技に一人でも追究できる授業づくりをしていく。

- ・技の系統表を活用し、それぞれの技の系統性やスモールステップで学んでいくことを大切にする。
- ・グルーピングやペアなどを意図的に組むことはせず、一人ひとりがそれぞれに取り組めるように、段々とできるようにする手だてを用意する。【系統表・場・動画撮影・掲示資料・お手本動画】

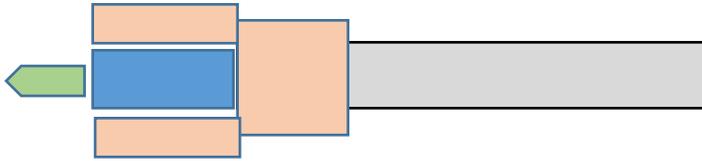
②動きの感じ(できた/できない)を大切にする。

- ・技の「できた」判定は、生徒にゆだねる。「できたかどうか」は生徒たち自身の判断ではかなり曖昧な部分となる。突き詰めれば、実はできていなかったり、完成度としては低かったりするが、内在する感覚や他者の評価から、できたと判断していく。「完成度を高める」より「自分なりにできた」という前向きな気持ちを大切に、できた喜びを感じながら取り組んでいけるようにする。

3 指導の工夫

(1) 器械・器具の位置 場の設定について(跳び箱運動とマット運動)

- ①跳び箱運動(回転系) **(縦おき)** 柔らかく、長さの短い跳び箱(青色)の上に、マットを乗せて包む。
着地部分は、柔らかいマットをコの字でセットする。主に「台上前転」「首支持回転とび」「頭支持回転とび」「前方倒立回転とび」に挑戦する生徒の場。必要に応じて、2か所設置。



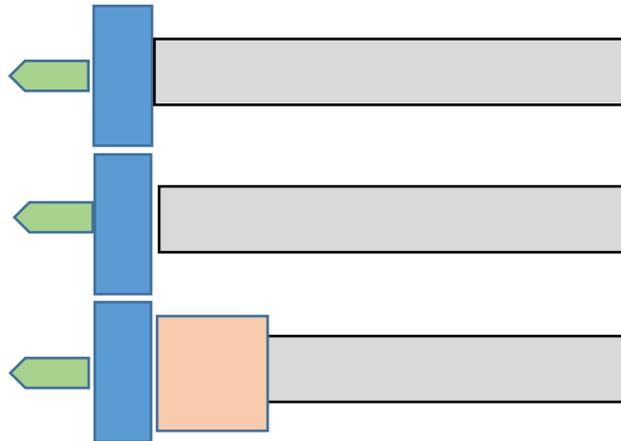
- ②跳び箱運動(回転系)(きりかえし系) **(縦おき)** 中学生用の長い跳び箱を設置。①の技に加えて、きりかえし系の技に挑戦する生徒の場とする。 **(低)**



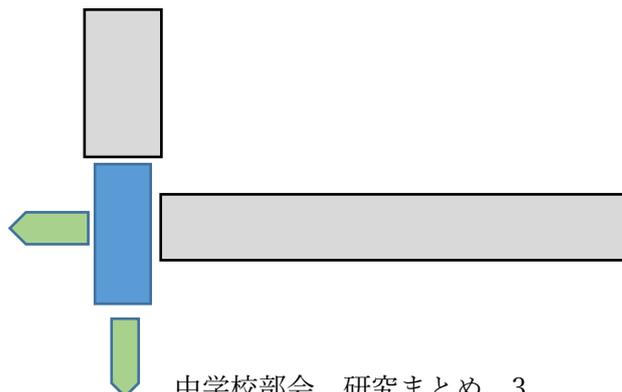
- ③跳び箱運動(回転系)(きりかえし系) **(縦おき)** 中学生用の長い跳び箱を設置。①の技に加えて、きりかえし系の技に挑戦する生徒の場とする。 **(中)**



- ④跳び箱運動(きりかえし系) **(横おき)** 3コース 中学生用の長い跳び箱を設置。 **(低)(中)(中)**

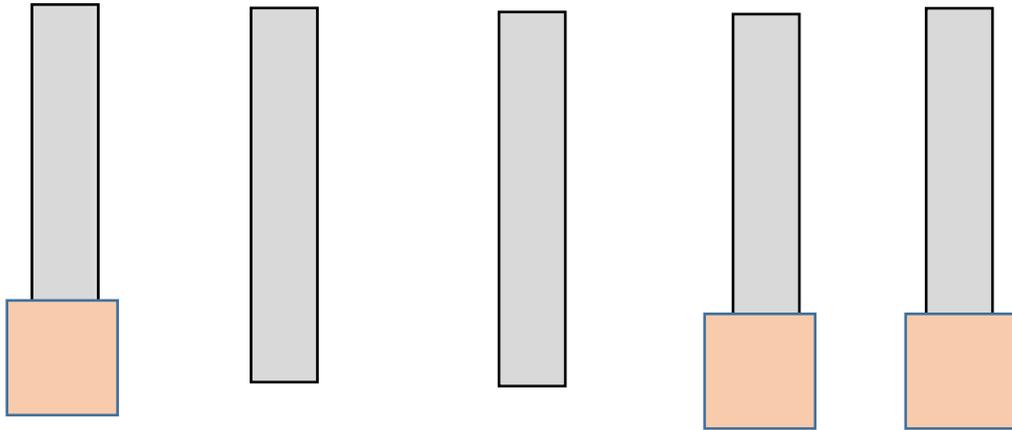


- ⑤跳び箱運動(きりかえし系) **(横おき)(縦おき)** 中学生用の長い跳び箱を設置。 **(最も高くする)**
主に、滞空時間が必要な技に取り組む生徒の場とする。



⑥マット4~5枚(ロングマット)

基本的には、平置きのロングマットを並べる。ほん点技群の技に挑戦する生徒用に、エバーマットを準備しておく。



⑦据え置きの液晶テレビを設置し、お手本動画を確認できるようにする。

(2) 掲示資料について

倒立前転 段々とできるようになろう

A できた・B あと少し(補助あり)・C できない

| ステップ | 説明 | A | B | C |
|-------|-------------------|---|---|---|
| ステップ7 | 自力で倒立前転をする | A | B | C |
| ステップ6 | なめらかに回転加速して立ち上がる | A | B | C |
| ステップ5 | 後頭部→肩→背中→腰の順に回る | A | B | C |
| ステップ4 | 一直線の倒立 | A | B | C |
| ステップ3 | 壁倒立② | A | B | C |
| ステップ2 | 壁倒立① | A | B | C |
| ステップ1 | 壁押し(倒立の理想の形を理解する) | A | B | C |

ステップ1 壁押し

理想の倒立の形
あと1cm遠くに伸びて!

ステップ2 壁倒立①

だんだん壁に近づけていこう

ステップ3 壁倒立②

視線は床

ステップ4
一直線の倒立

手→肩→腰→つま先

ステップ5 後頭部→肩→背中→腰の順でマットに接地

このベストタイミングはいつ?

いきなり、ドシン!と落ちないように

ステップ6 立つ

ゆりかごスペシャルで立つ

膝に注意

膝が頭に当たらないように、腰を伸ばして回転する。

補助の仕方

脚を必ずキャッチ!
補助者は一歩前進してから離す

(3) 安全への配慮について

①器具の配置と導線(P3~P4を参照)

②周知徹底するルール

- ・跳び箱は、高さは調節してよい。
- ・跳び箱の助走路、着地するマットには、挑戦する人以外は、入らない。また、学習カードや鉛筆、マーカー、Ipad、体育実技は離れたところに置く。

③授業者の立ち位置は、全体が見渡せる位置を基本とする。

④補助は、説明を受けた行い方以外では行わない。

⑤ストレッチを授業開始時に実施。(夏季研修会の際に、皆様にご意見いただいた内容を基に)

- ・ヘッドアップ ・ザ・ツイスト
- ・リスト ・ニーストラドル
- ・プッシュアップ ・アキレス
- ・バックオーバー

⑥補強運動を授業開始時に実施。(夏季研修会の際に、皆様にご意見いただいた内容を基に)

- ・ゆりかごスペシャル(3回)
- ・前転—後転の連続(3回)
- ・お尻ゆりかごから後転
- ・川渡り(腕支持)(主に側方倒立回転に向けて)
- ・開脚歩き(開脚とびに向けて)
- ・うさぎ跳び(きりかえし) ※お尻ゆりかごから後転以降は、ロングマットを片道行けばOKとする。

4 子どもの動きの予想とゴールイメージ、課題の決め出し

(1) 予想される生徒の様相

①単元序盤:オリエンテーション・共通課題に挑戦する段階

第1時(オリエンテーション)では、器械運動のゴールイメージの確認、学習カードの使い方の確認、楽しみ方や学習の行い方、安全への配慮に関わる学習の約束の確認、評価の方法、単元全体の見通しなどといった学習の仕方について聞いたり考えたりする。生徒たちは、小学校での行い方との違いとして、自己選択した技にそれぞれのペースで取り組めばよいことを理解して、少しだけ前向きな気持ちになるだろう。また、誰かと必ずしも一緒にやらなくてもよいという学習方法に安心感を持つ生徒もいるだろう。第1時のオリエンテーション、場の準備の仕方の確認をした生徒たちは、やってみたい生徒と、やりたくないと感じる生徒が混在するだろう。補強運動をしたり、ストレッチをしたりすることで、久しぶりの器械運動が少し楽しみになるだろう。

共通課題を提示して、共通課題の技ができるようになるための練習方法を理解した生徒たちは、まずは挑戦してみて、できる技をひたすらやる生徒と、できない技に注目する生徒に分かれるだろう。また、全て簡単にできてしまい、他の技への興味を持つ生徒もいるだろう。特に共通課題の「倒立前転」「台上前転」に難しさを感じる生徒が多くいるだろう。倒立前転ができるようになるために、倒立の練習に取り組む生徒もいるだろう。台上前転の恐怖心から、跳び箱の段数を低く設定し、横にマットを置くなどした場を作り取り組んでみる生徒もいるだろう。共通課題については丁寧に扱っていきたいので、時に全体を集めて指導したり、

一斉に同じ技に取り組んだりする授業を展開し、その中で動きのポイントを示したり技に取り組む学習の手順を説明したりすることで、その後一人ひとりがそれぞれのめあてで学習をしていく時の手がかりを得るだろう。そんな中でも、誰かと一緒にないと取り組めなかったり、取り組んでいるようで取り組んでいなかったりする生徒も出てくるだろう。技ができるようになるための手だては一通り使ってみるように言葉がけをして、場の選択や変更を勧めたり、動画撮影時のポイントやお手本動画の着目点などを理解させたりすることで、段々と技に挑戦する場づくりを大切にしたり、一人で学習に取り組めるという思いをもったりすることができるだろう。

②単元中盤:できそうな技から、段々と挑戦しよう という段階

学習カードの系統表を眺めて、難易度の低い技(A. 1点の技)から段々と挑戦していく生徒もいれば、技のつながりを感じ、跳び箱運動ではひねりてみたりする生徒もいるだろう(系統表の使い方、左から縦に進めていく生徒と、横に進んでいく生徒がいるだろう)。跳び箱の段数や、マットの柔らかさなど、自分ができる場所を選択して取り組むだろう。できない技に直面したときに、近くの友だちの動きを参考にしたり、お手本動画を視聴したりして動きのポイントを探すだろう。技ができるようになった喜びから、何度も繰り返して同じ技に取り組む生徒もいるだろう。技ができなくて行き詰っている仲間の様子をみて、補助をしたりアドバイスをしたりする生徒もいるだろう。

時間が過ぎると、できる技を探し終えて、共通課題をめあてに設定する生徒と、まだまだできる技を増やそうとする生徒と、できなくて手詰まりになる生徒と、技の完成度を高めるために繰り返し一つの技を粘り強く取り組む生徒に分かれていくだろう。できなくて手詰まりになった生徒に対して、学習カードの記録や、授業での様子から教師による言葉がけを受けて、補助運動に立ち返って取り組んだり、段階的な練習に取り組んだりすることで、再度学習の軌道に乗ることができるようだろう。どの生徒も、できるようになりたい技を明確にさせて、できるようにならなくても、できるように取り組んだ生徒を称賛していくことで、設定しためあてに向けや取り組みができるようになるだろう。

③単元終盤:動きの分析をして繰り返して技に挑戦する、技の完成度を高める段階

単元終盤になると、取り組む技が絞り込まれ、一つの技に時間をかけて挑戦していく段階となるだろう。お互いがアドバイスを必要としたり、動画を撮影して分析したりするようになり、協働学習が自然発生するだろう。動きの感じを言葉に表現する難しさを感じたり、アドバイスを受けてもできなかったりして、諦めそうになる生徒も出てくるだろう。そんな生徒は、教師と共に系統表を確認し、できそうな技を発見したり、できる技を繰り返して完成度を高めたりするめあてを再設定して単元のまとめに向かって取り組んでいくだろう。最後の1時間は、系統表の得点集計をしたり、単元全体の振り返りをしたりする。生徒によって満足感に違いはあるだろうが、自分の努力を認めたり、工夫して技を追究する楽しさを思い返したりすることで、来年度の器械運動学習に向けた新たな願いをもち、希望をもって次の単元に向かっていくだろう。

(2) ゴールイメージ

様々な技に挑戦して、自分なりの「やり方」と「できた」で、技ができる喜びを味わおう

(3) ゴールイメージに向けた課題のきめ出し

① 予想される課題

- ・できるようにするための方法がわからない
- ・技ができたかどうかを判断できない
- ・技のきめ出しができない(本来できるはずが、自分ではわかっていない)
- ・器械運動の学習に前向きな気持ちがない
- ・めあてが明確にならず、自分に合った取り組みを選択できない
- ・取り組みを選択できなかったり、積極的に技に挑戦したりできない

② 本質的な課題

- ・技の系統性を意識しながら、スモールステップで徐々に難易度の高い技に挑戦したり、系統が似ている技に挑戦したりする。
- ・共通課題で学んだ追究方法を各自のめあてに合わせて選択し、必要に応じて仲間と関わりながら課題解決に向かう。

5 単元の目標

(1) 単元の目標

| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|--|
| 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方などを理解するとともに、基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができるようにする。 | 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 | 器械運動に積極的に取り組むとともに、良い演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 |

(2) 評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <p>○マット運動や跳び箱運動の特性や技の名称や行い方などを理解することができる。</p> <p style="text-align: center;"><マット運動></p> <p>○自己の能力に適した接転技(前転・後転系)やほん転技(倒立回転・はね跳び系)の基本的な技を行うことができる。</p> <p>○条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p style="text-align: center;"><跳び箱運動></p> <p>○自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うことができる。</p> <p>○条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> | <p>○自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての見通しをもつことができる。</p> <p>○自己の目標や課題に即した場を選び、工夫して活動することができる。</p> <p>○自己や仲間の考えたことを他者に伝えたり、書いたりすることができる。</p> | <p>○技ができる楽しさや喜びを味わいながら、試行錯誤しながら取り組もうとしている。</p> <p>○一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>○場の安全に気を付けている。</p> |

| 単元:器械運動(マット運動 跳び箱) 会場:伊那中学校 第一体育館 授業クラス 1-1 男子12名 女子18名 合計30名 | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---|---|---|--|---|---|--|---------------|
| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| ゴールイメージ | 様々な技に挑戦して、技ができるようになる楽しさを味わおう。 | | | | | | | | | |
| ねらい | 学習の見通しをもとう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 簡単な技から段々挑戦しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 簡単な技から段々挑戦しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 動きを分析し、繰り返し技に挑戦しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 簡単な技から段々挑戦しよう 動きを分析し、繰り返し技に挑戦しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 簡単な技から段々挑戦しよう | 共通課題に挑戦し、技の挑戦の仕方を理解しよう 簡単な技から段々挑戦しよう | 単元全体の振り返りをしよう |
| 学習活動 | オリエンテーション 1 集合 挨拶 健康観察 2 単元全体の見直しをもつ ○ゴールイメージの確認 ○学習カードの使い方の確認 ○学習の約束を理解する 3 場や器械、器具の準備をする ○準備の方法や意図について全員が理解する 4 準備運動、ストレッチ・補強運動をする ○準備運動、主運動につながる運動の行い方を理解する 5 個別学習について理解しよう ○学び方についてガイダンスを受け、理解する | 1 場や器械、器具の準備をする 4 本時の取り組み方 共通課題から 取り組んでみよう 《 跳び箱運動 》 <input type="checkbox"/> 下向き跳び1/2ひねり <input type="checkbox"/> 開脚跳び <input type="checkbox"/> 台上前転 《 マット運動 》 <input type="checkbox"/> 前転-後転の連続 <input type="checkbox"/> 倒立前転(△補助付き) | 1 場や器械、器具の準備をする 2 準備運動・ストレッチ・補強運動をする 3 集合、挨拶、健康観察 | 5 系統表を見て、個々のめあてに応じて、簡単な技から段々と挑戦していこう。 ○小学校の時に取り組んだことのある技ができるか確認してみよう。 ○できそうな技を見つけて、挑戦してみよう。 ○自己の能力に適した場で練習しよう。 | 6 技の紹介を見て、動きを分析したり、練習方法を理解したりして繰り返し技に挑戦していこう。 ○自分や仲間の動きを観察しよう。 ○仲間から、必要であれば、アドバイスをもらおう。 ○感覚を言語化して、仲間に伝えてみよう。 | 7 技の出来栄を高めよう。 | 4 系統表の得点集計 ○丁寧に系統表を塗ってあるか確認して、集計をしよう。 5 単元全体の振り返り ○単元全体の自分の取り組みやできるところを振り返ること、年度の抱負を書こう。 6・7 自己評価をしよう ○知識・技能について ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度について ○たのしかったかどうか ○最初より楽しかったかどうか | 学習のまとめ | 8 本時を振り返り、次時のめあてを設定する 9 自身の学習の取り組みについて自己評価をする 10 場や器械、器具の片付けをする 11 集合、健康観察、良い取り組みの共有、挨拶 | |

7 本時案

(1) 主眼

共通課題の技に挑戦しそれぞれに取り組みたい技を設定した生徒たちが、共通課題で学んだ追究方法を確認して、自分のめあてに合う方法を選択したり考えたりして取り組むことを通して、めあてに向かって挑戦する楽しさを味わうことができる。

(2) 本時の位置 10 時間中第5時

前時 技の系統表を見て、共通課題を含め、自分ができそうな技ややってみたい技に挑戦する。

次時 選んだ技に挑戦する。

(3) 指導上の留意点

- ・安全が保たれるよう、段階的な練習方法の提示や、一人ひとりにあった場の選択、場の変更ができるようにする。
- ・めあてが明確でない生徒や学習カードの自己評価で低評価をしている生徒に声をかける。
- ・活動量が確保されるよう、事前に生徒の取り組む技をある程度把握し、必要によっては場の数を調整する。

(4) 展開

| 段階 | ◇学習活動 | ・予想される子どもの反応 | ○指導・評価 | 時間 |
|-----|---|--|--|-----|
| はじめ | ◇場の準備 ◇準備運動・ストレッチ・補強運動を行う ◇学習カード・鉛筆・マーカーを準備して整列・挨拶 | ・早くやりたいから、どんどん準備しよう。 ・安全の確保のためストレッチを丁寧にやろう。 ・お尻ゆりかごができるようになってきたぞ。 ・前回自分が課題とした技に取り組もう。 | ○準備の際に全員が参画すること、準備ができ次第、ストレッチや補強運動をやることを促す。 ○今日のめあてを確認することを促す。 | 5' |
| | ◇本時のめあてを全体で確認する。 ◇新たな技の紹介をする ◇場の説明をする | ・自分が選んだ技に取り組めばよいのだな。よし、自分は、倒立前転からやってみよう。 ・共通課題をクリアできていないから、今日も共通課題に取り組もう。 ・前方倒立回転とび、段々やったらできるかも。挑戦してみよう。 ・首はねおきできたらカッコいいだろうなあ。 ・今日は、技のポイントを確認したり、友達に補助したりしてもらいながら、やってみよう。 | ○一人ひとりのめあてが明確になっているか確認をする。 ○手本として、教師が開脚跳び 1/2 ひねり、首はねおき、前方倒立回転とびを試技する。 ○跳び箱の高さの変更や、場の工夫については、大いに認めていく。 ○どんな練習を選択しながら技に取り組めばできるようになりそうか、見通しをもたせる。 | 5' |
| なか | ◇めあてに向かってとくくむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">評価：めあてに向かって挑戦する楽しさを味わうことができたか。</div> | ・技ができているのかわからないな。 ・仲間の動きやお手本動画と自分の動きを撮影して比較してみよう。 ・段々と取り組むとできるみたいだから、練習方法を確認して取り組んでみよう。 ・めあてにしていた技ができたけど、次に何をやればよいのだろう。 ・できる技がもうなさそう。困ったなあ。 ・とりあえず、やることが見つからないから、仲間の練習のお手伝いをしよう。 ・できたから、マーカーで丁寧に塗ろう。 | ○技の出来栄については、生徒の能力から判断して言葉がけをする。 ○お手本動画を頼りにするか、仲間の動きを頼りにするかは生徒の判断に任せる。 ○できるようになりたい技や動きができたらめあてを再設定させる。 ○段階的に、取り組める技が無くなる、できる技の完成度を高める時ではないので、できそうな技を探すように促す。 ○動画撮影の効果的な使用方法や学習援助の方法を伝える。 ○系統表の記入を促す。 | 30' |
| おわり | ◇個人の振り返り ◇全体の振り返り | ・今日やっと台上前転ができるようになった。 ・友達に補助してもらって、倒立前転の感覚がつかめてきた。あと少しでできるようになりそう。 ・もうちょっと開脚後転ができそうだ。次回のめあてにしよう。 | ○技ができるようにならなくても技能の伸びはどうであったか、自分にあった練習を工夫(選択)できたかについて振り返らせる。 ○次回のめあての決定を促す。 ○取り組みのよかった生徒を紹介し、練習の仕方を共有する。 | 10' |

8 話題にしていきたいこと

○マット運動と跳び箱を同時に扱ったことは、生徒が技の系統性などを意識して意欲的に技に取り組むことにつながったか。

○生徒一人ひとりが、様々な手立ての中から自分に合った場や練習方法を選び、追究することができていたか。

【マット・跳び箱運動の達成技とその系統】 ・できるよいうになった技にきれいにマークしよう。

| とび箱運動 | 回転系 | 1点の技 | 2点の技 | 3点の技 | 4点の技 | 5点の技 |
|---------|------------|-----------------------------|---|------------------------------|------------------------------------|---|
| | 縦おさ | ☆ステップから前転 ☆跳び箱1段で前転 | ◎台上前転 (できたら5点) | ◎首支持回転とび | ◎頭支持回転とび | ◎前方側立回転とび |
| | 横おさ | ☆横とびのりとびおり ☆下向きとび | ◎下向きとび1/2ひねり (できたら5点) | 下向きとび3/4ひねり | 下向きとび1回ひねり | 下向きとび1回と1/4ひねり |
| きりかえし系 | 縦おさ | ☆とびあがりとびおり | ◎踵脚とび (できたら5点) | 踵脚とび1/2ひねり 踵脚とび(水平) | 踵脚とび3/4ひねり | 踵脚とび1回ひねり |
| | 横おさ | ☆とびはこ馬乗りおり ☆とびあがりとびおり | ◎踵脚とび | ◎踵脚とび1/2ひねり 上向きとび | ◎踵脚とび3/4ひねり 上向きとび1/2ひねり | 上向きとび3/4ひねり |
| マット運動 | 接点技群 | ☆ゆりかご ☆前転(まえまわり) | ◎☆前転(大きな前転) ◎☆側倒前転 ◎☆前転と後転の連続 (できたら5点) | ◎とび前転(とびこみ前転) ◎側立前転(補助あり) | ◎側立前転(補助なし) (できたら5点) | ◎伸膝前転 ◎側立側倒前転 |
| | ほん転技群 | ☆後転 ☆背中じゃंप ☆その場でブリッジ | ◎☆大きな後転 ◎☆側倒後転 ◎首はねおき (補助あり) | ◎伸膝後転 ◎首はねおき (しゃがみ立ち) | ◎伸膝後転 ◎首はねおき (そり立ち) | ◎後倒側立 ◎首はねおき (そり立ち) |
| | 平均立ち技群 | ◎首側立 | ◎側立バタタン (ふわりふわのマットへ) | ◎側立バタタンからブリッジ ◎側立 | ◎ロンダート (側方側立回転1/4ひねり) (曲線着地) | ◎前方側立回転(前方ブリッジ) ◎後方側立回転(後方ブリッジ) ◎前方側立回転とび (反り立ち) |
| 達成得点集計 | (1点の技×13個) | Max13点 | (2点の技×11個) (5点の技×4個) Max42点 | (3点の技×15個) Max45点 | (4点の技×10個) (5点の技×1個) Max45点 | (5点の技×11個) Max55点 |
| 最大 200点 | | | | | | |

学習カードの使い方: できたら、塗る。・1点の技から、段々と取り組んでみる。(表を縦に進んでいくやり方) ・技の系統を理解して、1点の技ができたから2点の技へ。(横に進んでいくやり方)
◎は、共通課題の技、技の難しさに関係なく、できたら5点を取れる! ☆は、やたらできちゃうかも、というおススメの技。ぜひ挑戦してみよう。

| | | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|-------|-----------|
| 共通課題はどうだったかな | ◎台上前転 | ◎下向きとび1/2ひねり | ◎側立とび | ◎側立前転 | ◎前転-後転の連続 |
| できたら塗ろう | できた | できた | できた | できた | できた |

| | | | | |
|-------|--------|-------|------|--------------|
| S評価 | A評価 | B評価 | C評価 | 評価 |
| 101以上 | 100~46 | 45~29 | 28~0 | |
| 得点 | | | | 得点合計 _____ 点 |

9 授業者振り返り

(1) 生徒の様子から

単元が終了したところで、改めてアンケートを取った。結果は以下の通りである。

〈 アンケート結果 1年1組:アンケート回収数 学習前 26/30枚 学習後 26/30枚 〉

Q1. 器械運動の授業は楽しかったか。

| | すごく楽しかった | まあまあ楽しかった | あまり楽しくなかった | 以前より楽しかった |
|-------------|----------|-----------|------------|-----------|
| 学習前(小学校の時は) | 6名 | 10名 | 10名 | |
| 学習後(今年度は) | 11名 | 11名 | 2名 | 4名 |

※学習後は、「以前より楽しかった」の選択肢を増やし、複数回答可とした。

全体に、器械運動について、楽しかったという感想をもつ生徒が増えた。あまり楽しくなかったと回答した2名の生徒も「友だちがたくさんアドバイスをくれて友情が深まった。前できなかった技ができるようになったときは嬉しかった。できる技が増える楽しさも味わえた。」「自分がやるのは全くと言っていいほど楽しくはなかったけど、友だちが成長していく姿を見るのはすごく楽しかった。」と回答していた。また、他の生徒の記述欄には、「最初は怖いマジで嫌だったけど、できる人がかっこよくてみんなでワイワイできて楽しかった。」「小学校でできなかったことができるようになって、本当に楽しかったです。」「最初は楽しくないと思ったけど、新しい挑戦に立ち向かうと楽しくなっていた。」「最初はマット運動とか苦手だし大嫌いだったけど、日に日にやっていくうちにだんだん楽しくなったし、できる技があると喜べるから、めっちゃいいと思いました。」「最初はやりたくなかったけど今はちょっと好きになった。」などの変化が見られる生徒が多かった。

Q2. 器械運動の授業でたのしかったことはどんなこと? (複数回答可)

| | 学習前 | 学習後 |
|---------------------------|-----|-----|
| ア:新しい技ができるようになること | 14 | 20 |
| イ:より高い跳び箱を跳び越すこと | 9 | 5 |
| ウ:ロイター板を使って跳ぶこと | 5 | 13 |
| エ:跳び箱を跳び越している感じ(ふわっとするなど) | 10 | 8 |
| オ:友だちとできるようになるために教えあうこと | 8 | 17 |
| カ:友だちとできた技を喜び合うこと | 9 | 18 |
| キ:跳び箱を使ってできた技などを発表しあうこと | 0 | 0 |

ア、オ、ウ、カ の項目で二桁を越える回答となった。

新しい技ができる楽しさや、教材の楽しさ、友だちとの関わりが楽しかったと答えた生徒が増えた。

Q3. 今年の器械運動で、できるようになるために助かったものやこと、人などについて教えてください。(記述)

- 友だちアドバイスや補助(17名) ○先生のアドバイスや補助(11名) ○妹の担任の先生(1名)
 ○自分の体、身体能力(1名) ○友だちの応援(2名) ○先生A(3名) ※参加者の先生の事
 ○先生のお手本動画(1名)

これまでの回答を総合して、楽しかったと感じた理由は「できるようになった」とこと併せて「友だちとの関わり」が挙げられている印象であった。P2で示したように、自己選択した技に1人でも追究できる授業づくりを大切にしてきたことで、一人ひとりがめあてをもち、前向きに挑戦することが「協働的な学び」に繋がっていったと考えられる。

(2)教材化について

たくさんの先生方の助言いただき、単元の構成や手だての絞り込みができたことに成果を感じている。単元計画では、単元序盤に共通課題の技に全員が挑戦するようにしたことで、技ができるようになる取り組み方の理解ができた。できるようになる取り組み方が分かったことで、共通課題以外の技でも、段々と挑戦する姿が多く見られた。

一人で取り組める手だてについては、「技の系統性を大切にした得点表」「場のレイアウト」「動画撮影」「掲示資料」「お手本動画」を主とした。特に「技の系統性を大切にした得点表」は、スモールステップで取り組める技の配列や、難易度を考慮した得点化を検討することで、生徒たちが自分のめあての設定や記録を振り返るアイテムとなった。倒立前転と台上前転に絞った「掲示資料」は、技ができるようになる取り組み方を理解する上で役に立った。「お手本動画」は、20種類の技の試技をグーグルドライブで生徒と共有したり、体育館に据え置きのテレビを設置してすぐに確認できるようにしたりすることで、自身の動きと比較して考える生徒がいた。手だてが効果的であったと感じられる半面で、内在している動きのポイントの理解が不十分な生徒(もっと前につまずきがある生徒)については、早めに支援しておかないと、闇雲な練習に取り組んでしまうことが分かった。そのため、補強運動で扱う内容などを更に研究することや、技の練習の段階を少し戻って確認していくことを指導する必要を感じた。

(3)マット運動と跳び箱運動の同時進行について

研究会でも、同時進行で扱った経験のある先生がいた。自分自身としても、マット運動と跳び箱運動を同時に行うことのよさを今回の授業づくりから感じた部分はあるが、どのタイミングで同時進行にしていけるか、は検討していきたいと思う。実際に、研究授業の際も、マット運動の1つの技を追究し続ける生徒もいた。「もう少し、絞り込んで学習してみてもは？」という意見もいただいた。単元の中で、いつ同時に使用すると効果的であるか、研究を進めたい。

(4)個別学習は成立していたか について

「一人ひとりがめあてをもち、自分が選択した技に取り組むこと」はできていたかと思うが、その一人ひとりを繋げる言葉がけや、一旦全体を集めて共通してつまずいているところを着目させるなどの「教師の出」については、更に研究していきたいと感じた。

(5)全体を通して

最も、器械運動を嫌がっているクラスを対象として取り組んだ。今回の授業研究を行ったことで、生徒たちが「器械運動」という単元に前向きになっていったことが一番の収穫であった。その後、クラスの全員が壁倒立を卒業したときに、お互いを讃え合う姿が印象的であった。1年1組の生徒の前向きな姿勢に感謝している。

そんな中、上記したように、更なる課題を感じている部分が出てきている。特に補強運動の内容の検討や、2・3年生の授業で実践してみた「技を自分で分析する」という点については手ごたえを感じなかったので、来年度に向けて計画を修正したい。お手本動画の質の向上も頑張りたい。

～ 終わりに ～

研究会や事前授業に多くの先生に足を運んでいただき、常に背中を押す言葉をいただいたおかげで、前向きに取り組むことができました。夏季大会から、多くの先生が共に体と頭を動かして下さったことに感謝しています。授業研究会でご意見いただいたことや岩田先生のお話を受けて、更にレベルアップして頑張りたいと思います。ありがとうございました。

10 授業記録(子どもの様子から)

<北原さんの姿から>

(1) 子どもの様子

①準備～課題把握

- ・前時、自力で壁倒立ができるようになり、次回は倒立前転に挑戦したいというめあてをもった。
- ・ドリル後、跳び箱で開脚跳び、台上前転2回を行う。

木下T :「慈穩、今日どうするの?」

慈穩さん:「倒立前転行きたい」

②追究の様子

- ・マットで倒立前転に挑戦!一直線の倒立がきれいにできた(本時の中で一番の出来映え)。が、背中からおもむろにドシン!と落ちる。「いてて…」
- ・壁倒立へ移動。仲間にアドバイスしたり、岩田先生からアドバイスをもらったりしながら練習するも、壁倒立の精度の高まりや倒立前転への挑戦が見られなかったため、記録者がセフティーマットへ促した。「最初のドシンで内臓がぐにゃったんです」と、恐怖心が生まれたようだ。
- ・セフティーマットで倒立前転(腰が潰れる)→壁倒立→セフティーマットで仲間を見る→壁倒立、というサイクル。壁倒立に戻りながら、倒立前転へのチャレンジに踏み出す姿が見られた。

③振り返り、学習カードやインタビューの様子から

- ・「昨日家で倒立を練習して、腕を痛めちゃいました」と、家でも練習するほど熱中し始めている様子がかげえた。(腕を痛めたことで本時のチャレンジが若干少なかったということも言いたかったようだ)
- ・「倒立前転ができそうになりました。あとは、勢いがおさえられたら、できるきがします」(学習カード)と、できそうな感覚と課題をつかんでいた。

(2) 子どもの様子からの考察

①教材化(手立て)の効果

技を限定せず系統表やお手本動画を手掛かりとして、色々な技に挑戦できるような単元構成にしたことで、「マットが嫌い」と答えていた生徒達が意欲的に技にチャレンジしたり、粘り強く取り組んだりする姿が多く見られた。

②ゴールイメージに迫るための単元展開および教授行為について

- お手本動画が木下先生自身の実演によるものであったことや、人の視線が集中しすぎないような場の設定、挑戦しやすいクラスの雰囲気を作りだしたことなど、生徒達もより挑戦意欲を高めることができていた。
- △同じ壁倒立でも、人によって異なるつまずきが見られた。慈穩さんの場合は、倒立時の緊張を解除して肘を曲げるタイミングに課題が見られた。その子にとって本当に必要な支援は何なのか、常に見極め手立てを追加更新していくことで、一人ひとりの個別最適な学びが進むだろう。

③マット運動・跳び箱における運動の楽しみ方を創りだしている具体の姿

- ・「一瞬止まれた」「自分で支えられた」「スムーズに回れた」など、自分なりの「できた」という感覚を味わい、学習カード(系統表)を塗りつぶして達成感を感じていた。
- ・一つの技で行き詰まってしまっても、跳び箱、マットの場と様々な技の選択肢があることで、活動を停滞させずに、次の技に取り組んでいた。

<大塚さんの姿から>

(1) 子どもの様子

①準備～課題把握

体育館に着くとすぐに、仲の良い友達と一緒にストレッチを始めた。ストレッチ終了後に、開脚跳びや台上前転を行った。課題設定の際に、取り組む技は『倒立前転』、めあては「技をきれいにする」と設定して、活動に入った。

②追究の様子

大塚さんは倒立前転を中心に行った。まず、友達に補助をしてもらって補助倒立を行い、姿勢を確認した。その後セーフティマットに向かって倒立で倒れ込みながら、真っすぐな姿勢を意識して取り組んだ。10回ほどマットに倒れ込んだ後、「よし、動画を撮ろう」と言って、友達に撮影を依頼し、自身の試技を3回分撮ってもらった。撮影してもらった動画を見ながら、「もう少し背中を伸ばした方がいいよね。」や「脚が突っ込んでるんだよね。」と話し、それぞれについて意識をしながら5回ほど倒立に取り組んだ。



その後、30回ほど倒立前転に取り組み、「倒立から前転への繋がりが滑らかにできないこと、倒立の時間があまりないことを改善したい」と話してくれた。授業者から腕の角度を広げることをアドバイスされ、意識して取り組むと倒立が維持できる時間が長くなった。また、回数を重ねることでゆっくりと倒れるためには、徐々に腕の力を抜くことが有効だと気づき、前転も少しずつ滑らかになっていった。

③振り返り

- ・学習カードの振り返りは以下の通り。

| | | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|---|---|---|---|
| 4 | 1/4 | 技をきれいに倒立と長足。70cm? 12? | 今日は、ひたすら倒立前転をした。少しずつ上手な。ていつか、この技がたてられるようになる。たてよう。 | 5 | 4 | 4 | 2 |
| 5 | | 倒立前転を立つ所までつなげる。 | | | | | |

- ・本時の授業で一番上達したと感じたところはどこかを尋ねると、「少しずつ転がれるようになったところ」と答えてくれた。

(2) 子どもの様子からの考察

①教材化の効果

技の系統表があったこと、グループでの活動でなかったこと、共通課題の学習を通して学び方を学んでいたことが、大塚さんにとっては学びに向かう意欲を掻き立てる手立てになっていたと感じ

じた。

大塚さんは、ひたすら倒立や倒立前転に取り組んでいた。倒立前転に関しては掲示資料があったが、あまり活用していなかった。

②ゴールイメージに迫るための単元展開および教授行為について

自分なりの「やり方」や「できた」を大切にすることで、器械運動を苦手としている大塚さんが意欲的に取り組んでいた。また、授業の途中で見られた授業者からのアドバイスは大塚さんが自身の取り組みを振り返り、技の完成度を高めようとする姿に繋がっていた。授業者の反省の中でもあったように、つまづいた時には一つ前の段階に戻って練習することを意識づける声かけがあれば、より効果的な手立てになっていたかもしれない。



③マット運動における運動の楽しみ方を創りだしている具体の姿

自身の「できた」の規準である『倒立の時間を長くする』を達成するために自身の試技を撮影してもらい、分析して前述のように発言する姿や教師からのアドバイスを素直に取り入れる姿、倒立の時間が長くなったら次は滑らかに転がる所へと課題を変えていた姿、何より倒立と倒立前転を合わせて92回も行っていった姿は、技ができるようになる喜びを味わい、楽しみ方を創りだしている姿だと感じた。

11 授業研究会

(1) 授業者振り返り

1年1組は、アンケートの段階で器械運動の授業を嫌がる生徒が多かったが、単元が進むにつれて実は楽しいといった感じになっていった。こちらの願いとしては、器械運動を前向きに取り組むようになってほしい、生徒からこうやりたい、できるようになりたいという気持ちと取り組みたい技をもっていれば、自然発生的にかかわりが生まれてきたりアドバイスをし合ったりというのが生まれるのではないかと考えた。そこで、共通課題と言われる技を選定し、まずその技ができるようになることを促した。そこは、かなりスモールステップになっており、単元の前半のところで丁寧に扱って本時を迎えた。

今日の授業を振り返って、反省点は、跳び箱とマットを一緒に出して単元を進めていたことで、生徒の課題となっている局面をクローズアップして指導することが難しくなってしまう、課題に戻ることなく進んでしまうことが多くなったこと。もう一つは、かなり活発にやっている子どもたちが多いように見える中で、技ができないまま動きだけ繰り返している生徒がいて、やる気に満ちていいなと思う反面、技の完成を妨げているつまづきを解消してあげなければいけないというところがあったこと。他の技に挑戦するという支援や生徒が完成させたいと思っている技に繋がる、もっと簡単な技に取り組むような支援があってもよかったか。生徒のめあてに対してどのような姿が見られたか、ご意見いただけたら嬉しい。

(2) 質問

【辰野中：細江先生】

授業の入りはいつもフランクな感じで子どもたちがウォームアップを始める感じか。

→はい。基本的にはそうで、単元にあった運動と必要な補助運動をやる。来た生徒からランニングをして補助運動をやって、終わった生徒から技に取り組んでいいと伝えることもある。

(3) 協議

【西箕輪中：伊藤先生】

子どもたちは課題に沿って取り組んでいた。自分ができるレベルに応じた技をよく分かっていて、自分でできることは1つ1つやろうという姿があった。また、動画があったり技の系統表があったり、必要になった時にすぐ手元にあるところが良かった。特に技カードは、次はこの技に取り組もうという繋がりが見えていたので、私も参考にしたい。

生徒が広がって取り組んでいる分、先生が見て回るのが難しい。Sさんは何度も倒立の蹴り上げの練習はしていたが、友達や先生にアドバイスを頼みづらい姿が見られた。腕の上に肩がしっかりと乗らないことで安定しないところがあったので、そのような生徒たちにどうやって声をかけて手を加えていくかというところは、様々な課題を持つ生徒たちがいる中で難しいところ。

【辰野中：細江先生】

先ほど体育館に入ってくる場所の質問をさせてもらったのは、生徒たちが普段の生活のまま体育に来ている感じ、変なこわばりがない感じがして、木下先生の雰囲気が出ていたのではと思った。あの感じで、私も授業をやっていきたい。開脚跳びに挑戦したJさんは一生懸命取り組んでいたが、どうも挑戦できなかったみたいで、最後のシートには「怖くてできないと思い込んでいるからだと思った。」というような書き方をしていた。跳び箱運動の経験値が少ないだろうと思ったが、手だてを加えるとするなら、青い柔らかい跳び箱が設置してあるので、そこに馬乗りになるところからのスタートを促して、怖さを軽減していく声かけがあると良い。

あと、Yさんは倒立前転が前よりできるようになったと振り返っていたが、前よりできるっていうのはどのくらいできたのか、前よりどこがどんな風になったから良くなったというところを振り返らせたい。1人1台のiPadを持ってきて、最初はこうだったけど、最後はこうなったというように、ピフォーアフターみたいな感じで自分の姿を撮りためておくと、完成までいかなかったとしても、自分はこちらまで伸びてきたということを実感できるのではないかな。手だてはたくさん散りばめてあった。

【伊那養護学校：伊藤先生】

木下先生がこのクラスを選んだ理由でマット運動に苦手意識を持つ人が多いということを知った時に、その子どもたちが今日この1時間の中で一生懸命やろうとしている姿を見ると、場をたくさん作ったことでいろんな技に取り組めるので、興味も上がってよかったと思った。ただ、1人1人が、具体的なめあてを持って学習に取り組んでいたかという、やってみようという技は書いてある一方で、どんな課題を持っていて、どのようなところを改善していけばできるようになるのかということまでは据わっていないのかなと感じた。

後半からOさんの活動の姿を見ていたが、うまくいっていないところを1個でもいいので分析をした上で、ここをちょっと意識してみるといいよって声をかけられると良い。子どもたちの中でも分析をし、さらに自分の練習過程、練習方法を自分たちで選択し、できたという経験を積み重ねることが、またさらにマット運動を好きにしていける可能性なのかなと思った。

【春富中：熊谷先生】

O君に着目して見させていただいて、もともと器械体操が好きじゃない生徒であったが、倒立前転や倒立を合計92回練習していた。しかもこの生徒は何も考えずにひたすらやっていたというところが、そうではなくて、「今何を意識しているの?」と訪ねると、「背中を伸ばすこと」「足を揃えたい」と答えてくれた。木下先生が来てくださってアドバイスをもらった時は、しっかり素直に聞いて実践しようとする姿が素敵だなと感じた。

一緒に研究をさせていただく中で、手だてをどうしていくかという話の中では、たくさん手を用意しすぎることに

で子どもたちの活動が停滞してしまうのではないかと心配もあったが、今日見ていると、生徒は自分ができない点は分かっている一方で解決する方法が分かっていない感じがした。しかし、ホワイトボードの掲示してある資料や動画などがきっかけとなって、子どもたちが「できそうかも」という見通しをもつことに繋がったのかなと感じた。子どもたちが楽しそうに授業に取り組んでいる姿を見て、木下先生の人柄だったり授業設計だったりとか、自分自身に取り入れられるところを取り入れて授業をやっていきたいと思った。

【伊那小：有賀先生】

私はIさんを見させていただいた。器械運動が得意ではない生徒だが、今日回数を数えていたら、39回倒立前転に取り組んだ。彼女はピンと足を伸ばしたいってということでそれだけの回数をやっているということがすごかった。もう一つ、彼女のすごいところは自分で解決するために色々試していたこと。一つは、学習カードを見て、動きを分解してやれば良いことを分かっていた。また、友達の補助に入り、倒立のところを1回止めることで、補助をする良さを分かっていた。それから、隣でやっている男子の様子を見て、あのようによれば良いのだなと考えていた。さらに、高いセーフティマットから薄いセーフティマットのところに場所を変えて取り組むこともやっていた。これだけ自分で追究する手だてを持っている、試すということがすごい。

ただ、彼女は練習方法を選び、追究することができたが、結果的にはそれほど変わらなかったのが現実かなと思う。「腰がマットに突き刺さる」と友だちに言っていて、多分、僕の言葉で言うと、回るタイミングでうまく顎を引くということと体を締めるということが必要なのだが、彼女はそれがうまくいかなかったのだと思う。木下先生がたくさん示していただいたものの中に、もう1点、何か自分の「内」を感じられるような手だて、例えば「○○のような感じだよ」とか「ぐっと閉めるといいんだよ」といった言葉の手だてがあると、さらに進んでいったのではないかな。

【東部中：垣内先生】

研究の方から一緒に参加させていただいて、木下先生の姿勢について毎回すごく勉強になることがあるので、その点をお話したい。まず木下先生のこの授業構想が、子どもたちの思いとか願いからスタートしているところがとても素晴らしい。子どもたちがやりたいこと、嫌だなんて思っていることを全部解消してあげようとしているような授業の構想でスタートしているのが良い。また、夏合宿の時に木下先生が実原先生の講習会から一生懸命学んでおられるのを見ていて、お手本動画は youtube とか使えば簡単に見られるものはあると思うが、それをあえて使わず、木下先生ご自身ができない技から一生懸命筋肉痛になるくらいまで練習をしてお手本動画を自分で作られたというところが、子どもたちが今後学ぶことを、先生自身がまずその道を歩いているところに、とても勇気をいただいた。そして、1人1人がめあてを持って取り組み、自然発生的に共同的な学びが生まれるということの木下先生がおっしゃっていたが、「1人で追究したかったら1人でやるのもいいけど、一緒に学ぶ方が必要と感じたら一緒に学ばいい」というように、子どもたちがその目的に沿って学んでいけるように促しているということも素敵だなと思った。今日、私はK君という生徒を見ていた。今日は倒立前転に挑戦するという場面で、壁倒立をする前にまず倒立前転をマットでやって、綺麗に真っすぐ倒立ができたが、うまく前転ができずに背中からバタンと落ちてしまった。多分、そこで恐怖心が生まれてしまったのか、そこからはずっと壁倒立に取り組んでいた。1人で自由進度的に学習するのであれば、それはそれでよいと思うのだが、その子にあった手だても1人1人違うのかなと感じた。その後、K君はM君と、K②君と3人でずっと壁倒立をやっていたのだが、同じ壁倒立やっているメンバーであっても出来に差があり、同じ壁倒立であっても、3人とも課題が違っていたので、教師側がどのような手だてが必要かというのを掴んでおくのは大事なのかなと思った。あと、この技ができたら次の技というように決められているわけではないのですが、系統性を持たせていたり、安全性に留意されていたり、

だんだんと子どもたちができるようにという願いが、さりげなく仕込まれているところが現れていた授業だった。

【東伊那小：今枝先生】

すごく楽しそうな授業で素敵だった。女子の活動が停滞する傾向が中学にはあるが、とても一生懸命取り組んでいて、これまでの木下先生の授業作りだったり、課題とか困り感が明確になっていたりするからこそ、それが可能になっていた。

自分が授業で生徒にアドバイスをするとしたらどこかなと考え、木下先生が言ったように「支える」ところをもう少しアドバイスをすることもできるかもしれない。アドバイスをするとき、自分ができないことなどアドバイスをすることができないと思うので、生徒それぞれ課題はあるけれど、「支える」ところであれば、多分できる子どもたちがアドバイスするという活動が始まってくるのかなと思う。

マット運動と跳び箱を同時にやって1番困ったのは安全面。広い体育館の隅で支援をしていると、どうしても背中側に子どもたちが活動していることになるので、先生がこうやって見守っていたよ、みたいにしてあげたい。

【赤穂東小：村澤先生】

私は途中からKさんが気になったので、途中から伊藤先生と一緒に熱をもった指導を始めてしまったけれど、彼女は時間の多くを壁倒立に費やして、何度も挑戦している姿から「自分のできるところから始めてよい」という木下先生が大事にしてきたことが表れたと感じた。技術的な指導のところは、この先生が説明して下さるということで、途中で別の女の子が倒立前転の練習から戻ってきたとき、Kさんに対して「ちょっと足が上がってきているね」と声をかけてもらったところから、Kさんが補助をしてもらって形を作れるような姿になってきたので、そこから、残りの2人もKさんを見ながら、「頑張れ」など声をかけながらやっている姿が見られた。先生が大切にされていた系統性の中で、彼女たちが倒立前転から壁倒立に戻ってこようっていうところで、Kさんの成長を見つけ、さらに自分たちも壁倒立の補助を通して自分の壁倒立を見直すきっかけになっていくというところが、木下先生のおっしゃっていた通り自分の必要感からかわりが生まれてくる姿なのかなと感じた。したがって、系統性の中で、マットも跳び箱も入れていくという授業の方向性は、今後考えていくことが大事だと思う。

【東中：柳生先生】

個人で追究する授業だと、グループ活動が少なくなるというのは自分も授業をやっていると感じるので、例えば、自分が「できた」「できない」を動画に撮って、それを共有するスペースを作ったりすると、そこに行けば追究のきっかけがもらえるかと思う。先生が1人しかいないので、本当は先生に聞きたいけれど、多分私が生徒だったら聞きに行きにくいので、技ができる友達に聞ける空間ができるといいと思った。また、ホワイトボードに今日の私の課題はこれですと書く、ジャムボードを使って共有してみる、などがあれば仲間からのアドバイスをもらいやすいのでは。